

わが市わが町

「伊勢原市」



伊勢原市は、1620年頃に伊勢国の人々が開墾し、故郷を懐かしむ気持ちから神明寺（現在の伊勢原大神宮）を建立したことで、古くから周辺農村部の中心部でありました。

また、山岳信仰地の大山は、関東一円から多くの参拝者が訪れ、大山街道を中心に現在の街の骨格が形成されてきました。

本市の総面積5,552haのうち2,054haが森林で、全体の37%を占めています。このうち伊勢原市森林整備計画の対象とする民有林面積は、2,054haで、スギ・ヒノキを主体とした人工林が991haを占めており、人工林率は48%となっております。

本市の森林は、地域住民の生活に密着した里山から、スギ・ヒノキの人工樹林帯、モミ・ブナに代表される貴重な天然樹林帯までバラエティーに富んだ林分構成となっております。

これらの森林は都市近郊に位置するため、手頃なレジャーの場所として毎年多くの人々に利用され、良好で快適な自然環境とのふれあいの場を提供しております。

さらに、流域の貴重な水源地として、下流域に飲料水や農業用水等の豊かな水資源を供給しており、これらを適切に管理することは、地域に安全で快適な自然環境を提供すると共に、保水林としての豊かな水資源を確保するなど、都市近郊の森林の持つ多面的な公益機能を確保することとなるので、森林の計画的な管理施業を積極的に推進していくことが、重要な課題となっております。

《企業の社会貢献活動による取組》

神奈川県では、森林の豊かな恵みを次の世代に引き継いでいくため、「かながわ森林再生50年構想」に賛同する企業・団体のCSR活動を推進し、協働で森林の再生に取り組む「森林再生パートナー」制度を創設いたしました。



その第1号として、株式会社東芝が、伊勢原市の森林において、神奈川県、伊勢原市森林組合、伊勢原市とともに未来につながる森づくり（「東芝の森」づくり）を、平成20年度より5カ年の計画で、進めていただきま

した。

さらに、本年4月には、平成30年度までの制度継続について同意いただき、引き続き森づくりに、ご協力いただけることになりました。



今年度の活動（植林体験会）につきましては、5月17日に約200名の参加をいただき、鍬をつかいながら、山の斜面に、苗木を1本ずつ丁寧に植えて頂き、無事怪我も無く、植林を終える事が出来ました。

実績といたしまして、6年目となりますが、約3.53haに約10,600本ものヒノキ、コナラ、モミジの植林活動を行っていただいております。

この「森林再生パートナー制度」により、大切な地域資源であります森林の整備が進みますので、森林再生に向けた大きな貢献となっております。

未来の地球を支える子どもたちへ豊かな自然が届けられていくことに、期待するものです。

（伊勢原市経済環境部農業振興課農林整備担当）